

基本的な考え方

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念とし、地域社会はもとより地球環境と調和した持続的な企業活動を通して、社会への貢献とともに企業価値を向上させていくことに努めています。

この企業価値を継続的に高めていくためには、経営の透明性確保と多面的な経営への監督機能が重要であると認識し、コーポレート・ガバナンスの充実に向けての取り組みを実施しています。

サステナビリティに関するガバナンス

シチズングループでは、「サステナブル経営」の推進と、ガバナンスの強化を目的として、「サステナビリティ委員会」を設置しています（p10『「サステナブル経営」の推進』をご参照ください）。同委員会が中心となり、グループのサステナビリティに

関連する重要な課題やリスク・機会、取り組み状況等について審議し、経営会議を通じて取締役会への報告を行うとともに、取締役会からの指示・監督を受けて取り組みを推進しています。

腐敗防止への取り組み

シチズングループでは、2020年4月に具体的な禁止行為や腐敗行為への対応等を定めた「シチズングループ腐敗防止方針」を制定しました。同方針の内容については、国内のグループ全従業員向けに、eラーニングで周知されています。また、国内外のお取引先様に対しても、シチズングループの行動憲

章や人権方針、環境方針等の各種方針・ガイドラインとともに腐敗防止方針を共有し遵守をお願いしています。更に、海外の重要地域である中国では、お取引先様説明会および腐敗防止に関する研修を実施し、事業活動上の腐敗行為の防止に取り組んでいます。

ESGに関するリスク認識とマネジメント

シチズングループでは、ESGに関するリスクをグループ全体で取り組むべき経営上のリスクと捉えています。これらのリスクについては、シチズン時計のCSR室を中心としてグループ各社が連携し、定期的なリスクアセスメントを行うことで、リスクを特定するとともに、発生したリスクに対して迅速に報告・対応する体制を構築しています。このような体制の構築とともに、ESG・SDGs 関連のリスクの認識や考え方は、経営陣から現場の従業員に至るまでグループ内で醸成されつつあります。

実際のリスクマネジメントにおいては、新型コロナの拡大に対して、グループ全体でのリスク認識の統一が進んでいたことで、グループ内での情報

共有や対応をスムーズに行うことができました。

その他の重要なリスクとして認識しているサイバー攻撃や、グローバルに事業を展開している企業としての海外との輸出入に関わるリスク等についても、常時最新情報の収集や管理体制の構築を進めています。このうち、サイバー攻撃等のサイバーセキュリティに関するリスクに対しては、対応チームとして「CITIZEN-SIRT」を設立しています。

シチズングループの「サステナブル経営」として、ESGに関するリスク管理体制を構築・発展していくことで、リスクの早期特定のみならず、リスクから機会を見出していくことにも取り組んでいきます。

基本的な考え方

シチズングループでは、「シチズングループ品質行動憲章」に則り、ものづくりの全プロセスにおいて、品質に関わるコンプライアンス遵守の徹底を図っています。安心、安全、品質、環境に十分配慮した製品・サービスの提供を持続的に行うことを目的として、2018年度にグループ品質コンプライアンス委員会を設置して以来、同委員会が中心となり、

社員への研修やeラーニングによる周知、「シチズングループ品質行動憲章」の海外展開といった、グループ全体での品質コンプライアンスの強化に取り組んでいます。

この委員会は、各社の品質担当役員で構成され、品質に関するコンプライアンス遵守の浸透等に取り組んでいきます。

グループ品質行動憲章の周知・展開

企業理念である「市民に愛され市民に貢献する」にもとづいたものづくりの考え方や価値観等を明文化した「シチズングループ品質行動憲章」を周知するため、国内で、部門長や新入社員に対する研修や、全社員向けにeラーニングを実施しました。

海外への展開については、これまでも中国の拠点において、品質行動憲章の内容を伝えるポスターを掲示していましたが、2020年度は、新たにタイ

とフィリピンの製造工場でもポスターの掲示を開始しました。現在運用している品質マネジメントシステムの国際規格であるISOだけではなく、仕事に取り組む姿勢や守るべき規範を呼びかける品質行動憲章を新たに掲示することによって、海外の従業員に対して、業務に対する意識やグループの一員であるという認識の向上を促しています。

品質コンプライアンスの徹底への取り組み

品質コンプライアンスを徹底するための仕組みづくりとして、品質改ざんを防止するシステムの導入や、品質保証部門の独立性の確保について、グループに先駆けて取り組んだシチズン電子では、品質不正防止への効果が表れています。

今後も、グループ品質コンプライアンス委員会を中心となり、同社での取り組みを継続しつつ、得られた知見や課題をもとに、各社の事業内容や

規模も合わせグループ各社へ展開していくことを想定しています。

更にロードマップにも掲げた、品質コンプライアンスの視点による監査チェックリストについても、グループ全体に共通する項目に、各社の事業内容等にもとづく項目を合わせた包括的なチェックリストを作成していきます。

今後の展望

2020年度までは、グループ全体における行動憲章の策定や、取り組みの中心となる委員会の設置といった、品質コンプライアンスの強化のための体制づくりが主な取り組みとなりました。今後は、品質コンプライアンスという新たな品質管理の考え方の

もと、グループ品質行動憲章の更なる浸透や、チェックリストによる監査体制の構築・実施といった、グループ全体での共通認識の醸成や品質コンプライアンスの徹底のための連携を進めていきます。